

第1回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会 議事概要

1 日時

令和2(2020)年7月31日(金) 14:00~15:30

2 場所

栃木県庁 本館6階 大会議室1

3 出席者

別紙「出席者名簿」のとおり

※議事に先立ち、「県北地域サイクルツーリズム推進協議会」規約(案)を確認し、篠原靖委員を座長に選出した。

4 議事

- (1) モデルルート(案)について
- (2) 今後の進め方(案)について

5 議事概要

- ・事務局からモデルルート(案)について説明。その後、質疑応答を行った。
- ・今後の進め方(案)について、確認された。

6 委員の主な意見

○大森(宣)委員

- ・安全性の確保や交通機関(新幹線駅)とモデルルートとの接続についても検討が必要である。

○柿沼(章)委員

- ・今回のモデルルートは選手達も日常的に走っている道路であり、魅力あるモデルルートである。
- ・サイクリスポートは、地域の方々に浸透し、ご理解を得ることが非常に大きい。
- ・自転車を交通手段としてではなく、レジャーやスポーツとして楽しむビギナー層は一千万人おり、ここ10年でメジャースポーツとして浸透してきているが、始め方が分からないという人は多い。

○若杉委員

- ・一般の方々に楽しんでいただくには、案内看板等による安全面の対策を行う必要がある。

- ・路肩が狭い箇所等の安全対策を検討することが重要である。

○高坂委員

- ・サイクルツーリズムは、地域の理解を得ながら長期間継続していくことが大切である。
- ・サイクルツーリズムを地域活性化に繋げていくこと大切であり、既存インフラの活用や新規整備も含めて、栃木県のサイクルツーリズムを推進していければと考えている。
- ・レンタサイクルやシェアサイクルは、サイクルツーリズムを推進していく上で必要である。

○高根沢委員

- ・モデルルートの設定において、モデルルートに隣接する外側や内側のエリア（例えば道の駅、日本遺産等）でも楽しめるポイントなどを加えて考えていくほうが良い。
- ・経済効果の側面から考えると、サイクリストをセグメントすることで、それぞれをターゲットにした多様なモデルルートを設定し、栃木県の魅力を発信していきたい。
- ・各市町の魅力を発信するために、サブテーマを設定し、それぞれに地域の情報をまとめるなど、サイクリストニーズへの対応を考えてほしい。

○小野氏（高橋（政）委員代理）

- ・栃木県ならではの観光コンテンツを磨き、知名度を上げていくことが大切である。
- ・宿泊施設の屋内自転車持ち込みや自転車の洗車等、ハード面の整備が必要である。
- ・標識や看板等の多言語化、デジタルコンテンツの多言語化も必要である。

○佃委員

- ・那須塩原駅等の新幹線駅とモデルルートとのアクセス、電車で来た方々へのレンタサイクル、マーケットの情報提供等について、できることは協力していきたい。
- ・電車の中へ自転車を持ち込める車両をイベント的に栃木県に持ってくることについては、検討が必要である。

○高橋（和）氏（高橋（弘）委員代理）

- ・日本遺産等の連携も合わせて自転車の活用推進に関わっていきたい。

○松本氏（小出委員代理）

- ・モデルルートを活用し、広域的に宿泊や地域経済の活性化に繋がるような取り組みがしたい。
- ・日本遺産等を絡めたサイクルツーリズムの推進や、商工観光課とも連携し取り組みたい。

○高藤委員

- ・道の駅を拠点としながら、モデルルート上だけでなく面的に繋がる取り組みをしていきたい。

○熊田氏（大森（忠）委員代理）

- ・今回のモデルルートは、那須町や那須塩原市等の観光地から少し寄り道をしてもらうという大田原市の「ちょこっと 寄り道 大田笑市」の政策に合致していると思われる。

○高山委員

- ・さくら市の観光の温泉、道の駅、ミュージアム等とモデルルートやサイクルツーリズムの連携を検討していきたい。
- ・「和い話し広場」のレンタサイクルについてもサイクルツーリズムと連携しながら観光振興に繋げていきたい。

○柿沼（肇）委員

- ・塩谷町のキャンプ場と今回のモデルルートを絡めた活用を考えていきたい。

○井上委員

- ・行きたいと思える魅力作り、情報発信、走行環境・受入環境の整備が必要である。
- ・受入環境として休憩場所、トイレ、自転車の修理スペース等の施設があると非常に良い。

○篠原座長

- ・大切なのは地元の方々のためにモデルルートがあるということである。
- ・モデルルートを盛り上げる主体は専門家や県ではなく、市町であり、市町の意向を強く出してほしい。
- ・道の駅とモデルルートをどのように繋げるかということも重要である。
- ・サイクルツーリズムのターゲット層が3つ（サイクリスト（上級者）、サイクリスト（ビギナー）、一般観光客）に分かれており、それぞれに対してどのようなマーケットがモデルルート上で可能なのか整理していく必要がある。
- ・観光部とも連携できる仕組みを事務局で調整してほしい。
- ・今後の進め方（案）について、第3回協議会の議事に「活用の仕方の検討」が入っているが、第2回協議会に各市町でどのようにモデルルートを活用していきたいのか議論する必要があるので事務局で調整してほしい。

－以 上－

第1回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会 出席者名簿

(○:座長)

(敬称略・座長以外は種別内五十音順/建制順)

	種別	所属・職	氏名	備考
1	学識者	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 准教授	○篠原 靖	
2		宇都宮大学地域デザイン科学部 教授	大森 宣暁	
3	観光事業者	(公社)栃木県観光物産協会 会長	新井 俊一	欠席
4		(株)栃木プロジェクトプロ 代表取締役会長 那須高原オールスポーツアソシエーション 会長	高根沢 武一	
5		(株)JTB宇都宮支店 観光開発プロデューサー	高橋 政稔	代理 営業課長 小野 武志
6	有識者	ライブガーデンピチステンレ マネージャー	雨谷 千紗子	欠席
7		宇都宮ブリッツェン セネラルマネージャー サイクルスポーツマネージメント(株) 代表取締役社長	柿沼 章	
8		自転車活用推進アドバイザー	高坂 美歩	
9		ラジオパーソナリティ/リポーター	棚橋 麻衣	欠席
10		那須プレーゼン/NASPO(株) 代表取締役	若杉 厚仁	
11	交通事業者	東日本旅客鉄道(株)大宮支社企画室企画調整課 課長	佃 晋太郎	
12	通過市町	大田原市教育部 部長	大森 忠夫	代理 スポーツ振興課長 熊田 明美
13		矢板市総合政策部 部長	高橋 弘一	代理 総合政策課 副主幹 高橋 和寛
14		那須塩原市企画部 部長	小出 浩美	代理 企画政策課長 松本 仁一
15		さくら市総合政策部 部長	高山 登	
16		塩谷町企画調整課 課長	柿沼 肇	
17		那須町教育委員会生涯学習課 課長	高藤 建	
18	道路管理者	国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所 所長	井上 啓	
19		栃木県矢板土木事務所 所長	野尻 芳昭	代理 次長兼企画調査部長 古橋 明
20		栃木県大田原土木事務所 所長	平山 浩之	代理 次長兼企画調査部長 高山 誠
21	交通管理者	栃木県県警本部交通規制課 課長	吉田 学	代理 企画調整係長 岩瀬 光広
22		栃木県那須塩原警察署 署長	和氣 安男	代理 交通総務課長 松田 省司
23		栃木県大田原警察署 署長	谷野 太	代理 交通課長 青柳 守夫
24		栃木県さくら警察署 署長	添田 敦男	代理 交通課長 中田 洋介
25		栃木県矢板警察署 署長	高原 儀人	代理 交通課 交通総務係長 野中 正規
26	行政	栃木県県土整備部交通政策課 課長	谷 英夫	